

# 食品に関するリスクコミュニケーション（東京）

- OECDにおける農業に関する取組 -

開催日：2007年1月24日（水）

開催場所：星陵会館

参加者：133名 回答者：107名

回答率：80.5%

問1 あなたご自身のことや食品の安全性に関するお考えについてお聞きします。

## 性別

回答内容	件数	割合
1 男性	82	76.6%
2 女性	23	21.5%
無回答	2	1.9%
	107	100.0%

## 年齢

回答内容	件数	割合
1 20歳未満	0	0.0%
2 20歳代	7	6.5%
3 30歳代	23	21.5%
4 40歳代	32	29.9%
5 50歳代	28	26.2%
6 60歳代	15	14.0%
7 70歳以上	0	0.0%
無回答	2	1.9%
	107	100.0%

## 職業

回答内容	件数	割合
1 消費者団体	5	4.7%
2 主婦、学生、無職	6	5.6%
3 生産者	1	0.9%
4 食品関連事業者・団体	43	40.2%
5 マスコミ	1	0.9%
6 行政	15	14.0%
7 食品関連研究・教育機関	1	0.9%
8 その他	32	29.9%
無回答	3	2.8%
	107	100.0%

## その他FA

・農薬メーカー ・化学メーカー ・分析サービス業 ・肥料メーカー ・農薬輸入販売業  
 ・農薬販売 ・農薬等コンサルティング ・食品衛生コンサルティング ・食品安全モニター  
 ・メーカー

## 本日の意見交換会開催をどこでお知りになったか

回答内容	件数	割合
1 食品安全委員会のホームページ	44	41.1%
2 食品安全委員会からのご案内資料	12	11.2%
3 食品安全委員会メールマガジン	22	20.6%
4 関係団体からのご案内資料	15	14.0%
5 知人からの紹介	6	5.6%
6 その他	6	5.6%
無回答	2	1.9%
	107	100.0%

その他FA
・農水省からメール ・Google検索

### 本日の意見交換会に参加された動機

回答内容	件数	割合
1 世界における農薬の取組に関する情報を収集したかったから	35	32.7%
2 OECD（経済協力開発機構）における農薬に関する取組について知りたかったから	40	37.4%
3 専門家と直接意見交換をしたかったから	1	0.9%
4 業務の一環として参加する必要があったから	17	15.9%
5 国が行うリスクコミュニケーションの取組について知りたかったから	11	10.3%
6 その他	1	0.9%
無回答	2	1.9%
	107	100.0%

### 「100%安全な食品はないこと」について、あなたはどのように思われますか。

回答内容	件数	割合
1 強くそう思う	69	64.5%
2 ややそう思う	21	19.6%
3 あまりそう思わない	11	10.3%
4 全くそう思わない	1	0.9%
5 わからない	2	1.9%
無回答	3	2.8%
	107	100.0%

### 問2 本日の意見交換会についてお聞きします。 意見交換会開催時期

回答内容	件数	割合
1 とても適切だった	3	2.8%
2 適切だった	93	86.9%
3 あまり適切ではない	5	4.7%
4 全く適切ではない	0	0.0%
無回答	6	5.6%
	107	100.0%

### 開催方法（参加手続き・場所・所要時間）

回答内容	件数	割合
1 とても適切だった	10	9.3%
2 適切だった	88	82.2%
3 あまり適切ではない	3	2.8%
4 全く適切ではない	1	0.9%
無回答	5	4.7%
	107	100.0%

### 配布資料

回答内容	件数	割合
1 とてもわかりやすかった	18	16.8%
2 わかりやすかった	76	71.0%
3 わかりにくかった	7	6.5%
4 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	6	5.6%
	107	100.0%

### 専門家による講演

回答内容	件数	割合
1 とてもわかりやすかった	16	15.0%
2 わかりやすかった	74	69.2%
3 わかりにくかった	11	10.3%
4 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	6	5.6%
	107	100.0%

### 意見交換時の応答

回答内容	件数	割合
1 とてもわかりやすかった	7	6.5%
2 わかりやすかった	65	60.7%
3 わかりにくかった	9	8.4%
4 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	26	24.3%
	107	100.0%

### 意見交換会全体

回答内容	件数	割合
1 評価する	26	24.3%
2 おおむね評価する	61	57.0%
3 あまり評価しない	4	3.7%
4 全く評価しない	0	0.0%
無回答	16	15.0%
	107	100.0%

問3 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んで、をつけてください。

回答内容	件数	回答者数に対する割合
1 委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと (原則公開されていること)	73	68.2%
2 食品安全委員会ホームページ ( <a href="http://www.fsc.go.jp">http://www.fsc.go.jp</a> )	95	88.8%
3 食の安全ダイヤル (食品の安全性についての情報提供やお問い合わせ、ご意見を受付ける窓口)	44	41.1%
4 食品安全委員会メールマガジン (e-マガジン)	63	58.9%
5 食品安全モニター制度	52	48.6%
6 季刊誌『食品安全』	48	44.9%
7 食品の安全性に関する用語集	59	55.1%
8 食品の安全性に関する政府広報	33	30.8%
9 その他	2	1.9%
無回答	8	7.5%
	477	-

### その他FA

- ・全部
- ・各地におけるリスクミタウんミーティング。overworkなこと。

問4 食品の安全性を確保していく観点から、意見交換会などのリスクコミュニケーションで取り上げるテーマはどのようなものを希望しますか。(3つまで)

回答内容	件数	回答者数に対する割合
1 食品添加物	24	22.4%
2 残留農薬	50	46.7%
3 食品中に存在する汚染物質・化学物質	41	38.3%
4 遺伝子組換え食品	25	23.4%
5 動物用抗菌性物質(いわゆる抗生物質)	11	10.3%
6 BSE	12	11.2%
7 食中毒 (微生物・ウイルス・かび毒・自然毒)	27	25.2%
8 鳥インフルエンザ	12	11.2%
9 新開発食品	9	8.4%
10 いわゆる健康食品	31	29.0%
11 リスクコミュニケーション	16	15.0%
12 食育	9	8.4%
13 その他	5	4.7%
無回答	8	7.5%
	280	-

その他FA

- ・肥料、飼料
- ・マスメディア(対応も)
- ・リスク管理の考え方。
- ・過去からのDNAと今後の食品の在り方。
- ・リスク評価の考え方。

問5. ご意見・ご感想

個人を特定できるものについては としています。

1	質疑応答は発表のすぐ後に行う方が良いと思う。
2	都合で 先生の講演のみ聴かせていただきましたので、一部アンケートを空欄にしています。
3	今後とも続けて欲しい。
4	・農薬等化学物質汚染に対する行き過ぎた大衆の恐怖心を除く事に直ぐに効果が出るか難しいところもある。しかしこうした取り組みは有意義且つ有効と信じます。回を重ねられ、国民レベル各層に合った内容に分化、特化されるプログラムが出来る事を期待します。・「食品リスクコミュニケーション」との演題にしては意見交換は農薬登録担当の専門的関心に偏ったと思う。広義には「リスク」に関わる事ではあると思いますが...
5	OECDの取組についての講演でももう少し具体的な例を詳しく説明してほしい。
6	マスコミ等が大々的に取り上げ、賛否両論の話題となっているものについて、科学的に正しい短識を説明する必要があると考えます。
7	参加者の職業別分類および人数を示して欲しい。
8	・問4.8)は食の安全性というより感染症の意見で、新型インフルエンザも含めてお話を聞きたいです。・温暖化や異常気象による農作物や動植物などへの影響など(こちらの希望すべきテーマでなかったらすみません)
9	大変参考になりました。
10	質問者：分析データが日本は出てこない。なぜか、指導するように。 氏の回答、はざれ悪く意見不明。 氏に回答おしつけるのは不適。正しい回答できる人間がすべき。事務局とかが。回答：生産者から分析データを出さなくてはならない責務はないはず。
11	ぜひ定期的にやって欲しい。
12	人工的なものが悪く、天然のものが良いという考え方が広く一般に広まっているが、全てにメリットとデメリット、リスクがある。その中で国民全体が食に対して正しい理解をすることが、日本人をもっと安全性を重視する国民性に変えることが出来ると考えられる。またメリットを得るにはコストがかかり、かけたコストと得られる結果が納得できるかは、真にリスクを学び、リスクの大きいと考えられるものからコストをかけることが出来た時に本当に満足すると考えられます。このことからリスコミの回数を増し、広く一般にリスクを語る事が大事かが理解されればと思います。まずは首都東京での回数を増やしてほしいです。
13	日本及びOECDでの農薬リスク評価については理解できた。問題点として、安全性の評価だけ取り上げているが、ベネフィットの評価はどのように進めていくのか疑問がのこった。又、OECDでの評価をうけても、国内で追加評価を受けるのは、大変なことだと思う。
14	食品に関するリスクコミュニケーションを行う以前に、一般消費者が、果たして正確な科学的に精査された情報をどの程度理解しているか、ということが非常に気になります。例えば、安全性を担保する指標としての「ADI」の概念がどの程度理解できているかどうか...。確かに、農薬に関する安全性や、それに関する評価を情報公開することは大切であるが、それ以前に行わなければならないことが山積みになっているのでは...と、底辺や一般消費者の立場として感じています。
15	今回の会に関して、お話はとてもおもしろくてためになったのですが、何となくかみあっていないようにも感じました。というのが、行政官の方のお話と研究者の方のお話で、それをつなぐ「何かの視線」議論が考え方がリスク・コミュニケーションとしてはいいのではと感じました。OECDですので、もう少しヨーロッパのお話も伺いたかったと正直思いました。
16	休憩時間が長すぎた。場の雰囲気もだらけるので、予定通り20分(あるいは15分くらいでも)で意見交換会へ移行した方がよかったです。実際は20分でしたね。
17	もう農薬の新規の開発や輸入は必要ないのではないかと思います。
18	ハザードとリスク、リスク管理者とリスク評価者の関係など、リスク管理の考え方そのものについて啓蒙するRCが必要かなと。そういうフレームが生活者の中に芽生えれば、対象となる物質はさほどに重要ではなくなる。
19	たしかに、コストや期間の圧縮は大切なことではあるが、食生活・食文化・人類学的な差をこえて、日本や韓国が同じシステムに乗る事が本当に良いことなのか十分に議論する必要がある。又、日本の農業のシステムと欧米のそれとでは、明らかに差がある。そこで必要な物や規制が異なっても当然ではないか。政府としては、大農産物輸出国であるUSやオーストなどと歩調を合わせたいところであろうが、ここは「リスク評価機関」である。食品安全委員会として、上記の問題に真摯に取り組んでいただきたい。ただし、自給率40%の日本の食料事情もあり、国内の生産者の育成の助けになることにも(ドリフト問題など)配慮をしたリスク評価にしていきたい。
20	OECDの農業評価のためのワークショップアプローチをぜひ日本も参画、貢献して下さいようお願いし、実現を期待しています。
21	・フラットなフロアでリスコミを実施すべきではないのか、講師が高所から見下して講演をしている。・原則公開制ということでリスコミを実施しているが、1つのリスコミごとの開催費用もオープンにすべきではないのか(以前講師を、食品安全委員会にお願いしたら旅費のみで来てくださったが)・食品安全委員会の専門委員の選考過程と結果もオープンにすべきではないのか(専門の研究者によっても見識が異なると思われるので)。かたよった見方の専門家だけに固まる可能性がある。
22	食品が安全過ぎるリスクはないのか?ということ...
23	委員長の発言のように、リスク評価の考え方(ゼロリスクではない)について日本としてコンセンサスが得られるようなリスコミを望みます。
24	農薬と同じように食品の中には多くの添加物が含まれています。その安全性に関してどこまで理解しているか自分でも良くわからない部分があります。それらをふまえて、添加物等のリスクなどもっと勉強できる機会があればと思います。
25	OECDの取組と日本での取組みとの相互関係というかわり方、実際の進行状況、日本でのリスク評価にどの様な影響があるのか全くわからなかった(知り得なかった)。
26	今後国内においてもリスク評価のワークショップは進んでいくと考えてよいでしょうか?大きな枠組みではJapanチャレンジプログラムやNEDOの化学物質のリスク評価とその手法開発などがあると思うのですが、検討すべき対象が膨大であることから、効率的な評価方法の開発を望みます。
27	意見交換会においては、risk managementを担当する農水及び厚労の担当も加わるべきである。 先生のお立場は、ポジリスト制度の評価についていえば、一市民としても同情する。risk managerが暫定地を決めておいてendorseせよということは本来傾倒の話であろう。Breakの時間をもっと短縮してほしい。